



日本聖公会
大阪教区教務局
〒545-0053
大阪市阿倍野区
松崎町2-1-8
TEL 06-6621-2179
FAX 06-6621-3097
発行責任者
教務局長 司祭 原田光雄

〈HP〉 <http://www.nskk.org/osaka/index.htm> 〈e-mail〉 office.osaka@nsk.org

第434号 2013年12月15日発行

大阪教区 成立90周年 記念礼拝説教

主教 サムエル 大西 修

2013年11月4日(月) プール学院メアリーズホール



父と子と聖霊の御名によつてアーメン。
本日ここに多くの主にある兄弟姉妹と共に、教区成立90周年記念礼拝をお捧げできますことを、主なる神に感謝い

11日、日本聖公会第1総会が川口の大阪三一神学校で開催され、1923(大正12)年4月、東京で開催された第14総会(教区設立総会)において、東京教区と大阪教区が初

司祭を初代主教に選出しました。12月11日、川口基督教会において、マキム主教の司式により主教按手式が執行されました。こうして生まれた大阪教区の歴史は90年を数えます。

現在の大阪教区は、教会数22、現職聖職数17、現在信徒数3,187人、現在受聖餐者数1,776人です。この数字は何を物語っているのでしょうか。

キリスト教禁制の高札が撤去される前から、命を賭して、主イエス・キリストを宣べ伝えるためにその生涯を献げた多くの宣教師、また敵国の宗教を信じる非国民と非難され、迫害を受けた信仰の先達を思いみる時、わたしたちが今、そしてこれから何をすべきかが見えてきます。

まずわたしたちは、今日の教会が停滞している、ありのままの姿を直視する必要があります。それをどうすれば、良い方向へと変革していくことが出来るのかを、信徒・教役者が一緒にあって真剣に考え、模索していくことです。

昨今、「丁寧な牧会」とい

う言葉をよく耳にしますが、主イエス・キリストのご生涯がその模範です。牧会は、教役者と信徒によってになわれていくものです。日々の生活の中で出会う人としつかり向き合い、その思いを理解するように努め、傍らにそっと寄り添い、声なき心の声に耳を傾け、その人に関心を寄せ、大事にし、愛することです。そのためには主イエス・キリストが、「自分を愛するように、あなたの隣り人を愛しなさい」と言われたように、自身をまず大事にし、愛することが必要です。それなくして、他の人に関心を持ち、大事にし、愛することは出来ません。「丁寧な牧会」はそこから始まります。

創立90周年記念聖句「あなたがたは世の光である。あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。人々が、あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになるためである。」(マタイ5・14、16)を、日々唱え、心に留めてきました。

山上の説教で主イエスは、
(次頁4段目につづく)

たします。

1896(明治2)年、大阪川口の地に、ウイリアムス主教により福音の種が播かれました。

1887(明治20)年2月

めての日本人主教による自給教区として成立しました。

同年6月5日、第1回教区会がタッカー管理主教によって聖ヨハネ教会に招集され、午後5時の主教選挙で名出保太郎

大阪教区成立90周年記念礼拝報告

式典長 司祭 パウロ 井上 進次

去る11月4日(祝日・月曜日)、大阪教区成立90周年記念礼拝が、プール学院・メアリーズホールにて献げられました。当日は、朝からの雨模様心配されましたが、天候に恵まれ多くの方が参加されました。

大阪教区は、1923年6月5日、聖ヨハネ教会で第1回の教区会が開かれ、東京教区とともに、日本で初めての教区として産声を上げました。以来90年の間、神様からの豊かなお恵みのもと、幾多の先達の献身によって、現在は22教会、現在信徒数3,187名(2012年度)の教区となっております。

昨年7月「大阪教区成立90周年記念実行委員会」が召集され、私も委員の一人となりました。そして記念聖句が「あなたがたは世の光である。あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい」に決まり、葉やポスターの製作が始まりました。90周年記念事業は、大きく3つから成ります。すなわち、ひとつは「90周年記念礼拝」の実施、また「90周年記念誌」の発刊、それと「90周年記念イベント(邑久光明園を訪ねる旅の企画・実施)」でした。

私は礼拝担当となり、年が明けた2月、礼拝担当の実行委員会を開き、副式典長は古澤執事(礼拝担当)と義平執事(午後プログラム担当)、聖歌隊長には川村輝夫さん、礼拝担当に斎藤みちさん、音楽担当に辻彩乃さん、内海由美子さんに加わってもらい、どのようなコンセプトで礼拝



台湾聖公会頼榮信主教(左)



を作り上げるかを協議してきました。そして4月、記念聖句から今回の礼拝のテーマが「主を仰ぎ見て光をうけよう」に決まり、テーマに沿った礼拝づくりが始まりました。

特に今回は、子どもたちによるアコライトが編成され、彼らが灯すロウソクの光をもつて厳かに礼拝を始めることとしました。(その光を全員でお献げできるように、聖職・信徒から成る礼拝奉仕団も、開式前に会場の後ろに控えてもらいました)。

さらに、キッズフェスティバルで子どもたちから集めた

(前頁よりつづく)

弟子たちに「あなたがたは世の光である」と言われました。「世の光になりなさい」ではなく、「もうすでに世の光である。世の光になっ

て言われたのです。わたしたちは自力で世の光になったのではなく、神さまの力をいただいて世の光となっているのです。わたしたちが人々の前に輝かす光は、わたしたちを通して輝く神さまの光です。

それを見て、人々がわたしたちの信じている神さまは何と素晴らしいお方でしょう、と賛美するのです。

この移り変わりの激しい、混沌とした現代社会の中に生かされているからこそ、「世

言葉を編んで、90周年記念聖歌「神様の風にのって」が作られました。聖霊をにじ色の風と表現し、その風に押し出されるように「さあ出かけよう!主の愛伝えるため」と宣言するこの歌を、当日は大人と子どもが声を合わせて声高らかに賛美しました。

また音楽担当には、桃山学院大オルガニストの松原晴美

の光である」誇りと喜びと希望をもって歩んで行きたいものです。

大阪教区は現在、宣教の働きが一層生き生きとしたものになることを願い求めながら、思いも新たに100周年に向かって前進して行こうとしています。その為の一大計画が、京都教区との協働・合併の実現です。このことは人間の思いで実現できるものではありません。聖霊なる神の大きな導きなくしては到底出来ません。神許したまえば、数年後にこのことが実現するでしょう。信徒の皆様と共に、希望に満ちた明日の教区を築くために、祈りを合わせてまいりましょう。

さん、また坂本真紀さんに吹奏楽部によるファンファーレ、答唱詩編、代禱の作曲を担当してもらいました。

聖歌隊は、各教会の皆さんをはじめ、京都教区聖セシリア会、桃山学院PTAコーラス、プール学院コーラス部から成る百人を超える大聖歌隊となりました。

(次頁につづく)



「90周年記念カフェ」で教会を巡る

(前頁よりつづく)

会場校であるプール学院中高からは、吹奏楽部、YWCAハンドベルクワイアに礼拝奉仕をしてもらいました。

午後の部は、各教会のパネル展とミニバザー、それに野外のミニ音楽会を開いて、楽しく買い物しながら教会を巡る「90周年カフェ」を企画しました。途中からの降雨で、

皆さんがゆつくりと教会めぐりできなかったのが残念でしたが、プール学院のフォークソング部、吹奏楽部等生徒による演奏会は、大変好評でした。

当日は、台湾聖公会頼榮信主教、京都教区高地敬主教、神戸教区中村豊主教をお招きすると共に、関係各施設・学校の代表の方々も出席され、

九百人を超す熱気にあふれた大礼拝となりました。

大西主教は礼拝のお説教の中で「わたしたちは自分の力で光となったのではなく、神様の光を受けて光輝くのです。この社会にあつて、世の光である誇りと喜びと希望をもって歩んでいきましょう」と言われました。まさに喜びと希望にあふれた時を、出席され

た皆さんは共に体感できたと思います。

このように、光と希望に満ちあふれた礼拝ができましたことを神様に感謝するとともに、これからの百周年に向けて、さらに祈り励みまします。さあ出かけよう。主の愛伝えるために！
(いのうえ しんじ・プール学院チャプレン)

大阪教区 90周年を迎えて 5

教区成立90周年を迎えて思うこと

主教 ヤコブ 宇野 徹



90年前に開催された日本聖公会総会において大阪と東京の2地方部が教区成立を可決され、当時の法規の規定では、教区成立には自給教会が6教会以上必要であり、大阪、東京の両教区はこの規定をクリアし、成立したのであります。当時、教区を成立するとは大変な決断であり、(当時の)両教区にとっては、財政的にも、色々なことにおい

ても重荷や苦難を背負うことであつたと思ひます。しかし、私達教会や信仰者が重荷や苦難を背負つて生きていく時、最も活き活きとしていくように思ひます。例えば、教会が新しい礼拝堂を建設しようとする時、牧師や信徒は経済的だけではなくて、精神的にも大変な重荷や苦難を背負いますが、信仰的には活き活きとしたものが与えられ、神様が

共にいて、支え導いてくださつていくことを実感させられ、教会は燃え上がつて行きます。大阪教区もある時代、次から次へと新しい教会が建設され、それを教区の全教会で支え合つた経験を持っています。その時の教区全体は活き活きとしていたことを思ひ出します。また、ある時期の教区礼拝では毎年、各教会の目指す目標を代禱で祈りました。その

各教会の代禱の殆どが「地域と共に歩み、地域のため、地域に仕える教会になる」というものでありました。しかし、現実の教会は自分達の心地よさだけを求め、苦しみ悩み、助けを求めている地域の人の存在に目を向けることもなく、気付くこともなかったように思ひます。もしこれらの人達の存在に目を向け、気付かされていけば、私達の祈りがもつと真剣なものとなり、神様の教会として活き活きとしていたように思ひます。

18年前に起つた阪神・淡路大震災の時には、関西だけではなくて全国から、また、海外からも救援活動のために来られ、被災地の教会が如何に地域の人達と無関係であつたかに気付かされました。また、3年前起つた東日本大震災に遭われた方々とみんながその苦しみや重荷を負い合い、分かち合おうとしております。どうか、私達教会も教区成立100年に向けて地域の人の重荷や苦しみと共に負い合う歩みをなし「地の塩、世の光」の存在でありたいものです。イエス様は「私の兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、私にしてくれたことなのである。」と言われていることをしっかりと覚えて、歩みをしたいです。(うの とおる・前大阪教区 主教)



大阪教区 第110(定期)教区会

開会演説(抄)

主教 サムエル 大西 修

2013年11月23日(土)
主教座聖堂(川口基督教会)

大阪教区第110(定期)教区
会開会にあたりご挨拶申し上げ
ます。

まずはじめに、去る11月8
日、フィリピンのレイテ島を
襲った台風30号による多くの
死者と被災者の方々を覚えて
祈ります。開会聖餐式の信施
金は管区事務所を通してフィ
リピン聖公会へお送りいたし
ます。

また東日本大震災から2年
8カ月、今なお復興が遅々と
して進まない厳しい現状の中
にある被災地の方々、とりわ
け福島第一原発事故による、
先の見えない放射能汚染の危
機にさらされている方々を覚
えて祈ります。

日本聖公会(管区)

4月6日、九州教区主教就
任式が行われ、主教ルカ武藤
謙一師父が就任しました。

5月11日、日本聖公会第
60(臨時)総会で沖繩教区主
教選挙が行われ、司祭ダビデ
上原榮正師を選出、9月7日、
主教按手式、沖繩教区主教就
任式が行われました。

2年間にわたる、東日本大
震災被災者支援「いっしょに
歩こう!プロジェクト」は、
7月から新たに「いっしょに
歩こう!パートII」となり、
管区は「原発と放射能に関す
る特別問題プロジェクト」を、

東北教区は東日本大震災被災
者支援室「だいに・東北」
を設置し、今後とも活動を続け
ていきます。

大阪教区

本年2013年6月5日、
教区成立90周年を迎えました。
1月から「大阪教区成立90周
年記念特祷」を毎主日各教会
で用い、90周年記念のシオリ
が全信徒に配布され、記念礼
拝で用いる記念聖歌「神さま
の風にとつて」も各教会で練
習し、当日の礼拝に備えまし
た。また「90周年記念誌」も
近く出版されます。

教区成立90周年記念礼拝は

11月4日(月・文化の日・振
替休日)、勝山のプール学院
中高のメアリースホールを会
場に行われました。100人
を超える聖歌隊も良く準備さ
れ、礼拝奉仕は子供から大人
までが担当しました。教区内
諸教会、関係諸施設、隣接教
区からの出席者も迎え、参加

者全員で盛り上げる礼拝とな
りました。天候にも何とか恵
まれ、900人を超える感謝
賛美の礼拝となりました。

10月3日、4日、90周年の
催しの一つとして、ハンセン
病についての学びを、邑久光
明園で畑野研太郎医師の指導
のもとに約30人が参加し行わ
れました。

90周年を契機に100年
に向けて、各教会の課題、教
区的な課題については優先順
位を決め、たとえ小さくても、
新たな宣教の歩みが一つでも
二つでも実現に向けて具体的
な活動を進めていくことが今
一番大切です。

今年は恵我之荘聖マタイ
教会創立50周年(9月21日)、
高槻聖マリヤ教会創立60周年
(10月5日)の記念礼拝・祝
賀会が行われました。聖ルシ
ヤ教会創立40周年記念礼拝も
12月8日に行われます。

京都教区との合併をも視野に 入れた教区間協働関係

2011年の第106(定期)
教区会で大阪・京都両教区の
常置委員会が、議案「大阪教
区・京都教区の協働及び合併

に関する検討委員会設置の
件」を両教区会に提出、可決
されました。検討委員会は今
回の第110(定期)教区会に最
終報告を提出します。この問
題について、両教区主教は主
日の巡回時に各教会で説明を
し、アンケートにも協力願
いました。本教区会では更に一
歩進んだ形の議案「大阪教区
と京都教区の合併を推進する
委員会設置の件」が提出され
ます。

台湾聖公会との協働関係

今年も毎主日、両教区の教
会で代祷を捧げています。3
月19日、23日、東日本大震災
被災地巡礼の旅を、頼榮信主
教ご夫妻をはじめ13人の方々
をお招きして行いました。教
区成立90周年記念礼拝には主
教ご夫妻をご招待しました。
来年4月26日の台湾聖公会創
立60周年記念礼拝には、訪問
団を結成し参加する予定です。

4月以降の人事について

○ペテロ金山将司神学生(ウ
イリアムス神学館2年生)..
4月1日付、聖職候補生志願
(次頁4段目につづく)

第110(定期)教区会 報告と議案の記録

日本聖公会大阪教区第110(定期)教区会は2013年11月23日、大阪教区主教座聖堂(川口基督教会)で行なわれた。午前9時から礼拝堂での聖餐式に次いで、会館の

議場に移り、点呼によって教役者17人のうち1名が欠席して16人、信徒代議員は36人全員が出席した。

次いで議長・大西修主教が開会演説された(演説の詳細は別項)。

常置委員会報告

○人事、教区・教会に関する事項、財務に関する事項など。

1. 「大阪教区と京都教区の協働及び合併に関する検討委員会」の最終報告

経緯「大阪教区と京都教区の協働及び合併に関する検討委員会」が2011年、それぞれの教区会で決議され、大阪教区(岩城聰司祭以下聖職1人、信徒3人、計5人)、京都教区(池本則子司祭以下

同上計5人)で構成され、2012年1月から始めて隔月ごとに6回開催された。その内容は以下の通り。

○「任務」

両教区の合併に関して具体的な問題点と対応策を協議し、随時常置委員会に報告。2013年の定期教区会に最終報告する。(以下省略)

○「結論」

大阪、京都両教区の検討委員会でも検討した結果、合併で得られる利点が多く、マイナスと思われる事象も克服可能な課題と判断する。現状の両教区の教勢では、協同、合併は必要かつ可能であり、協働、合併を実行に移すべきと判断する。

2. 中間報告以降の検討

「現状分析」

①両教区とも信徒数は減少傾向。大阪教区では4年後以降、教役者数が急激に減少し始める。②地理的分布として、現状の教区の構成は交通の利

便性とは必ずしも一致していない。③両教区の組織構成には相当の違いがあるが、合併を妨げるほどではない。

3. 「考え得る選択肢」

①現状のまま2教区を維持し、教区間協働を進める。②合併を視野に入れつつ、合同で教会運営、宣教を行う。③2教区を合併する。

教務局報告

今年の主な業務・活動では教区主教のもと、以下の業務を果たした。

*納骨堂の設置許可について。当教区22教会のうち、納骨堂を設置していない2教会、大阪府外の3教会を除き、すでに許可されたもの9教会、申請手続中のもの5教会。聖

贖主教会と大阪聖アンデレ教会は土地、建物を所有せず、現状では申請は出来ない。
*教区事務所専任職員2人体制が実現した。
*教役者の退職に関わる事務

(前頁よりつづく)
者に認可。
○ヤコブ義平雅夫聖職候補生…5月18日、執事按手式。
○サムエル福田光宏司祭…10月5日、間質性肺炎のため逝去。(72歳)
○クリストファー・奥村貴充執事…12月2日、司祭按手式の予定。
○堅信式受領者25
○聖洗式受領者27
○逝去者47

現在受聖餐者数が5年間で137人も減少しています。逝去者以外はすべて減少していることを危惧します。

2012年度の教勢報告を最後にいたします。
○教役者数「現職」19、主教1、司祭13、執事4、聖職候補生1
○現在信徒数 3,187
○現在受聖餐者数1,776
○主日礼拝出席者数 873
○主日礼拝陪餐者数 790

2013年4月現在、現職教役者は主教1、司祭12(内出向1)、執事4、聖職候補生1の合計18人です。そのため、来年4月以降も、約半数の司祭が兼任牧師か管理牧師になりますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

以上で開会の挨拶といたします。

手続。定年による退職・田宮紘執事。定年によらない退職・鍋島守一司祭、関川 康執事。

総務部報告

総務部は、財務委員会、法制委員会、歴史編集委員会、教役者養老厚生基金委員会、広報委員会が構成されている。

宣教部報告

宣教部は、生涯学習委員会、

なお、聖職養成委員会など7つの諸委員会、管区関連報告、10の諸学校・諸施設チャレン報告、小名浜聖テモテ・支援センター報告、教区連合男子会、教区婦人会などの報告は冊子で了解した。

(次頁4段目につづく)

大阪教区に司祭誕生

「静かな聖職」クリストファー・奥村貴充師



久しぶりの穏やかな晴天に恵まれた2013年12月2日(月)、大阪教区では、新しい「司祭」の誕生を祝うため、聖贖主教会には聖職者、信徒が詰め掛けた。聖職の方々が次第に少なくなると心配されているおり、若きクリストファー・奥村貴充執事が司祭按手を受けられ、新たな司祭が誕生されることは、神様の大きな恵みであった。

大西修主教の司式のもと礼拝は厳粛に進み、礼拝堂には感謝・賛美が満ち溢れる中、岩城聰司祭が説教台に立

たれた。師は堺聖テオテ教会で司牧されていたとき、「特別養護老人ホームで働いていた奥村さんが、聖職の道を選んだ」と語り、志願理由書には「現在の職場で働いてもよいが、全生活を宣教の業に参与したい」と書き、「超えた生き方、もしくは人生そのもの」と結論された、と語られた。岩城司祭はさらに「彼は真面目と言え、くそ」と言う言葉が頭に着くぐらいの真面目、金槌で叩けば「コチンと言おう」と話されたが、そのニュアンスは「揶揄」とは異なる次元のもの。そこには互いに深い子弟の愛が溢れ、礼拝堂はさらに豊かな「聖徒の交わり」に覆われた。

説教のあとには志願者の推薦に移り、推薦者が大西主教に「志願者が司祭

にふさわしい人」と答え、志願者は日本聖公会の教理、規律、礼拝を順守すると誓約。大西主教は会衆に対して「皆さんは司祭の職に召された人を受け、神が祝福してください。よう祈ろう」と言われ、聖別へ。志願者は大西主教の席に近い司祭たちからも手をおかれ聖別が行われたあと、大西主教から聖書が渡された。こうして「奥村司祭」が生まれ、そのあと平和の挨拶では多くの信徒に握手の手を差しのべ続けていた。

司祭按手式が終わり、そのあと一同は1階ホールに移り、祝いの宴に。大西主教をはじめ多くの人のユーモアに満ちた祝福と笑いの波がいつまでも続いた。(編集部)

奥村貴充司祭の略歴
和泉市の生まれで40歳。現在の桃山学院大学に近い小・中・高校で学び、同志社大学に。卒業後、特別養護老人ホームで働いたあと、聖職の道に進まれた。趣味はハイキングや水泳。

(前頁よりつづく)

議案

議案第1号 2014年度聖公会大阪教区一般会計承認の件。

議案第2号 大阪教区特別財産勘定における繰越残高一部振替承認の件。

議案第3号 大阪教区教役者養老厚生基金運営規則の廃止並びに「大阪教区教役者退職積立金会計規則」の制定の件。

議案第4号 大阪教区と京都教区の合併を推進する委員会設置の件。

※一昨年の定期教区会で設置された「大阪教区・京都教区の協働及び合併に関する検討委員会」の最終報告(10月3日付)を受け、常置委員会は、「両教区の合併が今後の福音宣教・牧会において必要と判断し、この議案を提出したものである。」

※京都教区の常置委員会も同一内容の議案を同教区会に提出され、やはり原案どおり可決・承認された。
※この委員会は、さらに2年

間、この課題への取り組みを続け、来年の定期教区会、さらに2015年の定期教区会にそれぞれ、中間報告と最終報告をする。

以上の件はすべて可決された。

指名と選挙

※教務局長 司祭 原田光雄

※常置員(一)内は補欠

・聖職 司祭 山本 眞、司祭 磯 晴久、司祭 齊藤

壹(司祭 内田 望)

・信徒 佐野信三、鈴木光子、長野泰信、(小池義郎)

※総会代議員(一)内は補欠

・聖職 司祭 岩城 聰、司祭 山本 眞、(司祭 磯

晴久、司祭 齋藤 壹)

・信徒 佐野信三、長野泰信、(鈴木光子、畑野めぐみ)

※会計検査委員 江野隆夫、佐野正子

議事録の朗読は省略し、午後4時35分、祈祷をもって教区会を終えた。(編集部)

ウイリアムス神学館創立65周年記念

マーク・チャップマン師が大阪でも講演

司祭 ペテロ 岩城 聡



ウイリアムス神学館創立65周年を記念して来日されたマーク・チャップマン司祭（英国オックスフォードのリン・カレッジ副校長）による記念講演が、10月10日（木）に大阪聖パウロ教会で開かれた。それに先立つ10月6日には創立65周年記念礼拝、7日には記念講演

が京都で行われた。30人が参加し、熱心に耳を傾けた。講演は「20世紀初頭におけるアングリカニズム、日本と高度文明の出会い」と題して行われ、チャップマン師は、19世紀における日本とアングリカン・チャーチ（聖公会）との出会い、その後の日本社会の変貌、国際社会における日本の地位の向上、日本に対する宣教師の見方の変化など

司祭サムエル 福田光宏師が逝去されました。



サムエル福田光宏司祭は10月5日（土）、間質性肺

炎のため、逝去されました。福田司祭は6月23日（日）、西宮聖ペテロ教会で聖餐式を司式中、急に体調を崩され、近隣の病院に搬送、さらに大阪市内の病院に入院されました。10月5日（土）午後2時32分、72歳の生涯を終えられました。

10月6日（日）「通夜の祈り」、10月7日（月）「葬送式」が、ともに大阪教区主教座聖堂（川口基督教会）で執り行われ、沢山の方々が参列されました。魂の平安のため、ご遺族のために、慰め、励ましをお祈りします。

被献日礼拝のお知らせとお願い

主の聖名を賛美いたします。

2014年の「被献日」(2月2日)は、主日に当たっていますので、教区婦人会独自の礼拝は行いません。各教会において「被献日」の聖餐式を守って下さいますようお願いいたします。

なお、当日の信施金は、日本聖公会婦人会の被献日献金のためにお献げください。この被献日献金は、教会に連なる人々の主体的な学びを支援するために用いられます。

どうぞご協力よろしく願いいたします。

大阪教区婦人会役員会

を事例を引きながら詳しく論じられた。そして、非キリスト教社会で最初に独立した組織として成立した日本聖公会の特殊性と、現代社会においてその少数派の教会が果たすべき重要な役割を指摘された。最後に師は、「現代のような時代に、日本やその他の同様の教会によって代表される少数派モデルは、違いを尊重し、他者性を大切にすることのできるキリスト教の可能な将来を示しているのかもしれない。従って結局の所、聖公会とくに控えめな規模の聖公会は、謙遜という聖公会の美德

と、恩寵の普遍性と考えられるものを教示す何かを持っているのです」と述べて、講演を締めくくられた。

講演後、心づくしの食事を共にして、交わりを深めることができたのは大きな恵みだった。

因みに師は、最近日本語版が刊行された『聖公会物語―英国国教会から世界へ』（原題：Anglicanism―A Very Short Introduction）の著者である。

（いわき あきら・ウイリアムス神学館教授・川口基督教会牧師）

恵我之荘聖マタイ教会

創立50周年の喜びと感謝

マリヤ 井上 美津

大阪教区40周年の記念事業として建てられた新伝道所の開所から50年。2013年9月21日福音記者聖マタイ日に、

恵我之荘聖マタイ教会創立50周年の記念礼拝・祝会が秋晴れのもと執り行われました。

記念礼拝聖餐式を、司式・

大西修主教、説教・植松誠主

教、補式・奥康功司祭・趙ジヨンピル司祭と出席者111名は、共に喜びと感謝をもってお捧げ致しました。

教会信徒より巣立って行か

れた3人の教役者のおひとり、植松主教がお説教の最初に、「大学生活4年間を過ごした

懐かしい教会であると同時に、

高槻聖マリヤ教会

共に歩んだ60年、そして未来へ

ヨセフ 猿橋 靖

高槻聖マリヤ教会は、10月5日(土)、管理牧師でもある

大西修主教の司式・説教により教会創立60周年の記念礼拝を行いました。当日は心配していた天候にも恵まれ、お世話

話になった多くの教役者、教友を含む130人以上の方々のご参加を得、篤い祈りと和やかな雰囲気うちに教会の今後を語り合うことができました。母なる大阪教区30歳の

記念事業として誕生した私たちの教会は、教区内外の多くの方々に支えられて還暦を迎えたわけですが、その強い意志を体して高槻の伝道に献身された佐藤時雄司祭が、文字通り家族ぐるみで教会の礎を築いてくださいました。

2代目牧師の竹内信義司祭は在任8カ月で木川田一郎主教の要請により教区主事に転出、後を受けた奥康功司祭が



恵我之荘聖マタイ教会創立50周年 2013.9.21

ある意味で、信仰の回心を経

現在地の教会堂づくりにご尽力くださいました。佐藤・奥両司祭の司牧時代35年の間に、建物を含めた聖マリヤ教会の姿が形づくられたと言えるでしょう。

次の十数年は、成田邦雄・松山龍二・小川博司各司祭のそれぞれ特色あるご指導があり、教会は充実していました。社会的にはバブルの崩壊もあり、信徒の移動、さらに高齢化の波も近づいていました。

2002年1月、小川司祭の急逝以後現在まで十数年は、初めて経験する管理牧師の時

験した教会でした」と仰った言葉や、30周年を記念して信徒が写した「マタイ福音書の写本」を手にして、当日の福音書を趙司祭が読まれたことなど、神さまがこの小さな教会に、こんなに大きな贈り物を与えて下さったことを改めて感じた日でした。

祝会は、アンサンブル・ペルレ(石橋聖トマス教会)の演奏を聴きながら、礼拝堂も2階も懐かしい方々との交わりの場で満ち溢れていました。

特に、巣立っていかれた3人の教役者と2人の教役者夫人が出席下さったことは、本当に嬉しく喜ばしいことでした。今、教会の玄関入口壁に、大きく引き伸ばされた当日の集合写真が額に入れて飾られています。信徒はそれを見ては、多くの皆さまに支えられた喜びと感謝を心に忘れることなく、次に向かって一歩ずつ歩んでいます。

(いのうえ みつ・恵我之荘聖マタイ教会信徒)

しています。

この時期の中ほど6年間で7代目の主管牧師として司牧当教会で定年を迎えられた福田光宏司祭はその後お元気で御用を果たしておられましたが、今年6月23日、聖ペテロ教会で聖餐式執行中に倒れ入院、10月5日当教会創立記念の祝会終了を待っておられたかの如く、午後2時32分に神のみ許に逝かれました。み霊の主にある平安をお祈り申し上げます。



(さるはし やすし・高槻聖マリヤ教会信徒、60周年記念事業委員)

大阪教区90周年
記念行事

国立療養所 邑久光明園を訪ねて
——ハンセン病研修旅行

40年ぶりの訪問 血を流し聖書を読む長老と再会

司祭 アンデレ 磯 晴久

私は40年ぶりに邑久光明園を訪ねる機会が与えられました。学生の時、ワークキャンプで訪問したのです。ハンセン病の後遺症で視覚障害となる方が多く、当時園内の道路は地道であつたので、足元が危なくないようにアスファルト舗装するのがワークの内容でした。今回整備された道路や建物を見て、隔世の感



がありました。しかしそれらは療養者が闘いの中で勝ち取られたことですし、療養者の苦しみ・悲しみは今も続いています。私が、そうしたキャンプでの出来事や出会いを思い浮かべながら、光明園家族教会に入ると、40年前もおられた長老方が出迎えてくださいました。そのお一人は、ハンセン病の後遺症のために視覚障害となり、点字を学習し

たが、やはり後遺症のために手の感覚を失い、でも聖書が読みたいと舌で点字聖書を読んでもおられた長老でした。私は、血を流しながらここまでして聖書を読む、この方の信仰の力は一体どこから来るのか、圧倒されるような思いをしたことを思い出しました。若き日の私に、信仰について、人生について考えさせてくださった方々との再会の機会を与えて頂き、心より感謝申し上げます。

(いそ はるひさ・石橋聖ト マス教会牧師)

偏見と差別の「隔離政策」を実感

ペテロ 佐藤 耕一

10月初旬、教区のハンセン病研修旅行に参加して、光明園を訪ねました。聖書にも出てくるハンセン病ですが、ほとんど何も知らなかったため、この旅行に参加しました。園内の広大な敷地には、かつて千人以上の入所者が暮らして

いた住居などと並んで、仏教、天理教、金光教、など各宗派の御堂と、教会も一つ、「光明園家族教会」(日本基督教団)があります。入所者は現在約140人ですが、大半の方は各宗派に属しておられるようです。教会で行われた祈

禱会で、入所者の方々のお話を伺って初めて、わが国でも100年以上も続いてきた隔離政策とその後の動きについて、実感できました。3千年以上にも及ぶ偏見と差別は、無知からくる恐怖に対して人

間がいかに弱いものか、スケープゴートを要求し続けなければ我慢できなかったかを、身に染みて感じた旅でした。(さとう こういち・芦屋聖マルコ教会信徒)

初秋の山陽路を邑久町へ

シラス 長野 泰信

10月3日9時、参加者32人に乗せた大型バスは新大阪駅を出発し、初秋の山陽路を邑久町虫明へと向かいました。道中黒井山パーキングにて休憩、丘の上で美味しい幕の内弁当を頂きました。

奨励「自分を捨て、自分の十字架を背負って」を聴き、讃美歌285番、自由祈祷。

12時30分、邑久長島大橋を渡り、国立療養所邑久光明園に到着。畑野研太郎園長の出迎えを受け、園内を徒歩にて光明園家族教会へ。日本基督教団光明園家族教会合同祈祷会に出席。旭東教会指方信平牧師、長老役の方々5人、畑野園長と一行32人、計38人が参加。山岡憲一長老の司会により、黙祷、讃美歌312番、開会祈祷に続き、指方牧師の

終了後、教会長老役の4名の方から、自己紹介を兼ねて、入所時のことから、療養所で苦労や苦しみを通じて神様に出会い、導かれた信仰の歩みの証を聞かせて頂きました。和やかな、ゆっくりとした時間の流れのなか、ハンセン病問題と真正面から取り組んでこられた4人の方々の貴重なお話を伺うことができました。

15時30分、光明園家族教会から管理棟まで(敷地834317㎡・国立療養所として日本一広い)園内の見学をしながら移動。管理棟玄関でイ

(次頁最下段につづく)

会 子 男 女
連 合 一 日 修 養

東京教区主教を迎え

「これからの10年を考える」

ペテロ 鈴木 憲二

2013年度連合男子会一日修養会は10月12日(土)午後2時より大阪聖アンデレ教会にて75人が出席し行われた。

司会の長野泰信兄(石橋聖トマス教会)によって進められ、岩城聰チャプレンにより講師の紹介がされた。東京教区主教大畑喜道師父をお迎えし、教区成立90周年から今後の10年に向けて、「これからの10年を考える」をサブテーマに「宣教協議会と教区と各教会の対応について 東京教区の実例」について講演をいただいた。

冒頭に「自分で食事の準備をし、後片付けをしている人は手を挙げて下さい」と言われ会場は、ざわめきが起こった。家庭内では女性が台所に立つ時が多いが、男性も共に立つて家事をすることが家庭を作り上げていくものであることは信仰についても同じである。牧師に全てを任せるのではなく、信徒とともに担う

ことが教会のあるべき姿と話された。

90年前は関東大震災があり、全てが無くなったが信仰は残った。こういう出来事のもと今に至っている。2012年に行われた宣教協議会を踏まえ、これからの東京教区は一教会一牧師の配置は出来ない。聖職者の急激な増加は望めない中で教会の数や教会の配置を考える必要がある。教区の

会 人 会
連 合 一 日 修 養

松本普師より

福島・新地の今を聴く

リベカ 吉川 礼子

秋らしくなり始めた10月18日福音記者聖ルカ日、石橋聖トマス教会に於いて教区婦人

会秋の修養会が行われました。台風26号の被害を受けた伊豆大島の方々の覚えての開会祈禱に始まり、講演は福島県相馬郡新地にて被災者支援を続けておられる松本普(通称

再編は緊急な課題であることと言われた。質疑応答のあと第一部は終了となった。第二部は向修一郎実行委員長の司会のもと聖愛教会婦人会の方々が用意して下さったおでんをいただき一同懇親の時をもった。第一部の献金51,786円は「原発問題プロジェクトのため」に献げられた。奏楽をして下さった米田久美子姉、会場を提供下さった大阪聖愛教会の皆様感謝します。

(すぎき けんじ 教区連合男子会会長・尼崎聖ステパノ教会信徒)

また11月1日(金)、超教派7教派が集い、心を合わせて祈り学ぶACWCJ(アジア教会婦人会議日本委員会)関西支部一日研修会が、日本福音ルーテル大阪教会に於いて行われました。聖公会大阪、京都、神戸教区からは61人が参加いたしました。

まっちゃん) 中部教区元聖ヨハネ修士会ブラザーのお話をお聞きいたしました。スクリーンに写し出される、地震や津波の被害にあう前と後のすっきり変わってしまった風景や、多くを失ってしまった現実の中、悲しみ苦しみを抱えながらも力強く生きて行こう

とされている人々の姿。困難の中で守られた聖餐式は「私は命のパンである」「私はあなたたちといつも共にいる」というイエス様からのメッセージそのものであること。寄り添うだけではなく、皆が共に主催し働き参加する「協働」によって「被災地の方が希望を持つ」という、神様のみ業を現すことの大切さを教えて下さいました。

出席者は148人。席上献金137,125円は、松本普先生の新天地でのお働きのために祈りとともに献げいたしました。小名浜の働きのための募金49,192円は木村司祭様にお送りいたしました。

また11月1日(金)、超教派7教派が集い、心を合わせて祈り学ぶACWCJ(アジア教会婦人会議日本委員会)関西支部一日研修会が、日本福音ルーテル大阪教会に於いて行われました。聖公会大阪、京都、神戸教区からは61人が参加いたしました。

(よしかわ れいこ・西宮聖ペテロ教会信徒) 主に感謝。

(前頁よりつづく)

メージキャラクター「こみよたん」の迎えを受け会議室へ。畑野園長による「ハンセン病」と「ハンセン病問題」の理解のための講義を受ける。17時30分、瀬戸内海を一望にし、眼下に邑久光明園と長島愛生園が見渡せる宿「岡山いこいの村」へ。夕の礼拝と夕食後、参加者のリクエストで再度畑野園長より、ハンセン病の講義を受けました。

10月4日10時30分、邑久光明園家族教会にて聖餐式。司式大西主教、説教齋藤司祭、信施「光明園家族教会のため」3人の長老と共に陪餐に与り大きな恵みを共にしました。

12時30分、園内の納骨堂へ移動して、逝去者記念式。司式磯司祭。献花を献げ、逝去者の魂の平安を祈りました。

13時、畑野園長に別れを告げ、光明園を出発。日生漁港「五味の市」にて各自昼食をとり、帰路に。

18時、新大阪着、こころ満たされ、全員無事に帰阪しました。主に感謝 (ながの やすのお・石橋聖トマス教会信徒)

韓国キリスト教の理解—その葛藤と分裂の歴史—

ソジョンミン 徐正敏先生講演会

司祭 ペテロ 岩城 聰



大阪教区の在日韓国・朝鮮人宣教協働委員会では、今年一連の学習会・講演会を主催してきたが、その締めくくりとして、9月28日に、韓国・延世大学教授、明治学院大学客員教授・徐正敏（ソ・ジョンミン）先生の講演会が、大阪城南キリスト教会で開かれ、約30人が出席した。

徐先生は、韓国キリスト教会信徒が現在人口の25パーセント以上になっている理由について語られ、①キリスト教が、日本の支配に抗して人々が民族独立を目指す原理になり

得たこと、②平壤大復興運動に見られる、魂に触れる熱情的信仰が生まれたこと、③教会、学校、病院という「宣教のトライアングル」がうまく機能したこと、等を挙げられ、さらに韓国キリスト教の負の面として、①「祝福信仰」が主流になり、イエス・キリストの受難の意味が十分に受け止められていないこと、②量的拡大のみを追求し、福音の意味が理解されていないこと、

などを指摘された。

しかし、民主化闘争の中で、聖公会をはじめ多くのキリスト者が身を犠牲にして闘う中で、日本人キリスト者との連帯も生まれ、素晴らしい伝統が築かれたことも強調された。そして、人口の0.8パーセントと言われる日本のキリスト者が、決して諦めることなく歩み続けること、時代は常に変動し、何が起るかは予測できないことを指摘され、現在のミッションに献身することが必要だと述べ、出席者を励まされた。

（いわき あきら・在日韓国・朝鮮人宣教協働委員長）

海水を取排水するために半島の山を掘り割って造った巨大な溝路、内海に面しているからこそ高くなる大津波を避けられない発電機、建設・操業のために巨額の資金をうけた地域の諸施設など、原発の現場を体全体で感じました。

夕食会では、仏教各派・天理教・出雲大社教・日本基督教団など、日頃宗教界で働く人々とじっくり語り合い、情報を交換し理解を深めたのも、大きな刺激でした。

2日目は小浜市の山間、阪上田村磨が1200年前の平安初期に創建した名刹、真言宗御室派の明通寺を訪ね、住職で市民運動家でもある中寫哲演師から、「原発と人権」と題して2時間の講義を伺い、

「原発と人権」に参加して

「大宗連」一泊研修

司祭 ペテロ 竹林 徑一

「大宗連」（同和問題にとりくむ大阪宗教者連絡会議）の第56回部落解放研究会が、10月7～8日一泊で福井県の高浜町・小浜市を会場に15人が参加して行われました。一部

を見て学ぶ」がテーマでしたが、その枠を超えて、めったに見聞できない内容・経験で、中身の濃い学びと交わりのおかげでした。

1日目、舞鶴では昼食後、引揚記念館・公園で、しばし



明通寺中寫哲演住職の講義

終戦後の引揚事業や戦前のこ

とに思いを馳せました。

午後は高浜町三松の来迎寺で、部落解放同盟福井県連委員長の下山敬太郎さんから、高浜原発ができる以前の様子、建設過程、完成後の地域の様子と変貌、またその背景などについて、被差別部落の当事者・経験者の視点からの解説「原子力発電所と被差別部落」を受けました。

次いで、バスで原発と地域一帯を見学して回り、冷却用

全国で50基ある原発の内、福井県には15基が存在し、日本一・世界一密集度の高い原発立地帯となっています。高浜と大飯、美浜と敦賀に挟まれながら、小浜市には強い設置や誘致の働きかけがあったにも拘わらず、1基もありません。原子力・原発の恐ろし

（次頁4段目につづく）

在阪のキリスト者・原発反対グループがシンポジウム 世界から見た日本の原発問題

司祭 ペテロ 岩城 聡

11月9日(土)午後、日本聖公会川口基督教会を会場として、『世界から見た日本の原発問題』と題するシンポジウムが開かれました。聖公会、カトリック、日本基督教団、朝樺会のメンバー、在日大韓基督教会など、教派を超えてキリスト者が、また、信仰の違いを超えて仏教(真宗大谷派)から、そして原発被災地からの避難者、関西で支援活動をしているグループ、またさまざまな角度から原発反対を訴えている市民グループが



集まりました。出席者は80人に上りました。

基調講演に立った「原発メーカー訴訟の会」事務局長の崔勝久氏(No Nukes Asia Actions Japan 事務局長、原発体制を問うキリスト者ネットワークの共同代表でもある)は、済州で開かれた「このちの平和(Peace for Life)民衆フォーラム」、および釜山で開かれていたWCC(世界教会協議会)総会に参加した印象と報告を皮切りに、広い視野から総合的に原発問題を捉える必要性を訴えられました。日本では戦後、戦争の被害者としても、また加害者としてもその責任を明確に追及することが行われておらず、曖昧なまま放置されていることから誤った歴史認識が生まれていることを指摘し、世界的な植民地体制の一貫として、日本の原発問題を理解することが必要であることを鋭く指摘されました。崔

氏は、そのためにも、現在、原発事故の責任追及の対象となっていないメーカーに対する訴訟を提起し、さらに、そのことによって原発の輸出にストップをかけることが必要だと力強く訴えられました。基調講演を補う形で、5人の方からテーマ別報告がなされました。小山英之氏(美浜・大飯・高浜原発に反対する大阪の会代表)が「福島原発事故の現状」、佐藤勝十志氏(滋賀県内避難者の会副代表)が「原発被害者はなぜ集団訴訟に踏み切ったか」、内藤新吾牧師(原発体制を問うキリスト者ネットワーク共同代表・日本福音ルーテル稔台教会牧師)が「キリスト者(信仰者)として原発をどう考えるのか」、長田浩昭氏(原子力行政を問い直す宗教者の会)が「仏教者・宗教者として、原子力問題を問う」、池島美紀子氏(ストップ・ザ・もんじゅ代表)が「自然と共存する

(前頁よりつづく)

さ・問題の深刻さを知った人々による「原発設置反対小浜市民の会」が1971年以来、一貫して地道に反対運動を展開し、自治体や市長・議会議員が党派を超えて姿勢を表明してきたことが、お話でよく理解できました。中寫住職も、初めは「原発は良いもの」という立場だったが、死の灰・被爆の問題に気付かされた時「安全神話」が崩れ、自分自身の問題となった時から反対を決意して、今に至っている」と述べられていました。原発・放射線の矛盾・しわ寄せが、作業員・子ども・被差別者などに掛かっていく事実にも触れられていました。冷

静に科学的にもものごとを見つめ、愛と情念を込めて語る行動家だとお見受けしました。運動の紆余曲折を記す機関紙、「はとぼっぼ通信」は、既に1995号を重ねています。今回の研修で開眼したことは多いですが、問題はあまりにも大きいと感じます。「大宗連」関連の学びの企画は、年間通じて多数提供されます。ぜひ、機会を捉えて共に学んでいきましょう。今回の推薦新刊書は、安富歩編「原発ゼロをあきらめない 反原発という生き方」明石書店、1,600円です。(たけばやし けいいち・教区社会宣教委員長)

脱原発エネルギーの町へ」とそれぞれ題する報告をされました。報告はいずれも極めて具体的に原発がもたらす害悪を指摘し、それとの闘いの方向が示されました。

休憩を挟んで、関西在住の避難者の方から更に補足報告があり、避難者の現状が参加者の胸を打ちました。その後

の質疑応答も白熱し、参加者の決意が表されていたように感じました。シンポジウムは午後1時30分から5時まで、たっぷり3時間半の内容の濃い集会となりました。

最後に、メーカー訴訟の原告団参加へのアピールがあり、会を閉じました。キリスト者 (次頁4段目につづく)

特別寄稿

原発問題についての

Q & A ③

日本聖公会・原発と放射能に関する特別問題プロジェクト

【3】原発のコストは安いのだろうか

2011年3月に政府が発表した最新発電コストは、kW/時当たり原子力が5〜6円、LNG火力が7〜8円、水力が8〜13円で、原発は安いとされています。しかしその計算方法は、あるモデルプラントを想定して計算したものであり実際のコストではないという事です。

立命館大学国際関係学部・大島堅一教授は、社会がこれまでに支払ってきたコストの実績値をみなければならぬと、1970年度〜2010年度平均の実際のコストを出しています。

用済み核燃料の処理・処分コストは含まれていません。更に本来は③環境コストとして温暖化対策費用、事故被害と損害賠償費用、事故収束・廃炉費用、現状回復費用、行政費用なども含めるべきとしています。

現在の電気料金には発電費用、送電費用、再エネ付加金(再生可能エネルギーの促進賦課金・2012年に追加)、税金(消費税と原発の維持促進に使われる「電源開発促進税」が含まれていますがこの税金は電気料金の明細書には直接記載されていません。2011年の原子力関係政府予算は4330億円、そのうち電源立地対策費が4割、高速増殖炉サイクル関連も同じく日本原子力研究開発機構の予算が4割を占めています。本格稼働できないもんだいゆに税金が毎日ほぼ6000万円使われていることになりま。発電関係にかかるコ

スト+α(利益も割合で決定される)は消費者の電気料金になるのですから、電力会社はコストセーブの必要がないのです。

3・11以後、多くの人々の苦難を知った今、未解決な使用済核燃料処理も事故処理も

(前頁よりつづく)
を中心に宗教者、無宗教の市民団体が一致して協力したと、そして、具体的な行動への糸口が与えられたことを考えると、このような集会が実現したことの意味は極めて大

さいと言わねばなりません。引き続きこの動きを継続して行きたいと思っています。(いわき あきら・原発問題を考える関西キリスト者集會事務局代表・日本聖公会川口基督教会牧師)

子孫に託したまま原発を再稼働推進する動きに対しては、もはや無関心でいることは許されません。コスト以外にも

一人一人が電気に対する理解を深めなければならないでしょう。

第3回 U26 全国集会 開催のお知らせ

日時：2014年2月21日(金) 午後集合～23日(日) 正午解散予定
会場：信太山青少年野外活動センター (大阪府和泉市)
対象：1987年4月～1996年3月生まれの聖公会に繋がる青年
内容：分かち合い「神様って?」「U26のこれから」、各地の活動報告、分科会、聖書研究、テゼの祈り…など
お申込み：各教区の青年担当者へお願いします
お問合せ先：U26 運営委員会 nskk.u26@gmail.com

U26 世代の青年が全国から集うこの集會も、3回目を迎えようとしています。今回のテーマは「ひびきあう」。同年代の青年が心をひびきあわせながら大いに語り合い、楽しみ、各地での青年活動に向けてあらためてエンジンがかかるような、豊かな交わりの時にしたいと思ひます。ご参加をお待ちしています！

- ・U26 とは … 18～26歳の青年が活動する日本聖公会公認青年活動グループです。Under 26 を略し、語呂合わせで「ゆーじろー」と読みます。
- ・U26 の活動全般及び集會の詳細はブログで発信しています。どうぞご覧ください！ <http://nskk-u26.blogspot.jp>

世界の窓

◎世界教会協議会
が無事閉幕

韓国の釜山で開
催されていた、第
10回世界教会協議
会(WCC)が11
日間の日程を終え

て閉幕した。今回の総会テーマは「生命の神、正義と平和にわたし達を導きたまえ」で、世界各国の教会へ正義と平和への関わりを革新するように呼びかけるものである。この総会において新議長としてケニア聖公会のアグネス・アブオム博士が選出された。女性の議長が選出されるのは65年間の歴史を持つWCCでは初めてである。150人で構成されるWCC中央委員のひとりで、ヨーロッパ局長デーム・タナー氏は閉会にあたり「(WCC総会は)世界各国からキリスト教徒が召集される驚くべき大会である。この総会において、戦争で苦しむ人々や崩壊した社会に住む人々の声を聴き、キリスト教の持つ生命力とその深さを体験することができた」と総会の感想を述べている。
(Anglican Communion)

News Service: November
8th, 2013 & WCC News
Website)

◎英国で女性主教は誕生するか

英国教会の教会会議は、女性主教選出が可能となる審議方法の草案を賛成多数で承認した。ロチェスター教区主教ジェームズ・ラングスタフ師父は、「この草案は英国教会が、教会として男女区別のないすべての宣教の担い手への秩序的解放となるという、明瞭な決定の日を迎えさせることだろう。そして、それによって按手を受ける者達が真実で正当な聖職者で占められることになるのだ」と語っている。賛否投票では378票のうち反対は8票、棄権が25票であった。草案承認手続きの後、女性主教選出に関わる法規作成についての草案修正を行うべく、2014年2月に教会会議が召集されるよう票決された。次回の教会会議での草案の修正および改訂が完了すればの話だが、今回の草案承認が、女性主教選出の最終投票で2014年後半には是認

奏楽奉仕者のためのワークショップ

鈴木隆太さん(横浜教区)に学ぶ

カタリナ 早川 文字



9月29日(日)

午後2時より川口
基督教会で「奏楽
者がすべきこと、
奏楽者にできるこ
と」と題して奏楽
奉仕者のためのワ
ークショップが開
かれました。講師
は横浜教区山手聖
公会オルガニス
ト・鈴木隆太兄。
大阪教区礼拝音楽
委員会と川口基督
教会オルガニス
ト

されるかもしれないという可能性をもたらしたことになる。
(Anglican Communion
News Service: November
20th, 2013)

司祭 ヤコブ 松平 功
(まつだいら いさお・桃山
学院大学チャプレン)

ギルドとの主催で、参加者は40人(うち京都教区から5人)でした。
鈴木兄は当日午前中の礼拝で奏楽のご奉仕をされ、表情豊かで新鮮な奏楽には驚かされました。

午後からのワークショップでは礼拝中に用いた聖歌を基に、それぞれの弾き方などの

ような意味が込められているかを教えていただきました。

音色や音量、テンポはそれぞれ聖歌に固定したものではありません、その時々参加人数、天気、オルガンの種類、教会暦等によって変化するもので、いつもそれらを模索しながらご奉仕をされているそうです。

2006年に改訂された聖歌集は、現代に生きていく人が歌いながら意味が分かる聖歌ということが目指され、多種多様な聖歌が掲載されています。どのように選曲をし、どのように弾いたらよいのか手こずるかもしれません。

奏楽者がすべきこと、できることは、よく練習をすることはもちろんですが、歌詞の意味をよく吟味して選曲をし、音色やテンポを決めること、その日の礼拝のテーマは何なのか、そのことを牧師や他のオルガニストともよく話し合うことが大切であると教えてくださいました。良き学びの日となり、参加できて感謝です。

(はやかわ ふみこ・石橋聖
トマス教会信徒)

教区の動き

常置委員会報告

10月10日(第11回定例)

I. 主教報告 及び諸報告

*福田光宏司祭が10月5日逝去され、10月6日通夜の祈り(司式・説教 大西主教)、10月7日葬送式(司式 大西主教、説教 松山司祭)が執り行われた。

*福田司祭の逝去に伴い、桃山学院の後任理事として山本眞司祭が推薦された。

*台湾聖公会、頼榮信主教夫妻が11月2日来日、大阪教区成立90周年記念礼拝に出席される予定。

*邑久光明園研修の旅には32人が参加し、実り豊かな旅を行った。

*第111(臨時)教区会を2014年3月16日に開催する予定

*日本聖公会第61(定期)総会は2014年5月27、29日に開催される。

II. 協議事項

*奥村貴充執事が管区聖職試験(司祭試験)に合格。これに伴い聖職按手式(司祭按手)を12月2日(月)10時30分より聖贖主教会に於いて、司式・大西修主教、式典長・齊藤壹司祭、説教・岩城聰司祭により行うことを決定、信施の献げ先は「教役者研修資金」のため。

*第110(定期)教区会に提出される4議案を確認。

*教区事務所職員採用の件につき討議。

*東日本大地震被災者・被災地支援のボランティア活動に付随する諸雑費の取り扱いにつき討議。

11月11日(第12回定例)

I. 主教報告 及び諸報告

*千松・古澤・義平3執事は2月25、27日の管区聖職試験(司祭試験)を受験する。

*台湾聖公会60周年記念行事

が来年4月26日に開催される。

*次任教区主教選挙のため、来年9月15日に臨時教区会を開催の予定。

*日韓聖公会宣教協働30周年記念セミナーが来年10月6、9日に韓国で開催される予定。

*川口基督教会で11月9日、「世界から見た日本の原発問題」と題したシンポジウムが開催され、他宗派、他教派からの賛同・出席者を交え、意義深い集いであった。

*宣教部主催により、12月6日大阪聖パウロ教会で、日本軍「慰安婦」問題を描く朗読劇「ひとみ」が開催される。

II. 協議事項

*教区事務所新任職員が内定、処遇・勤務内容等を確認。

*教区成立90周年記念礼拝に關して、プール学院に礼金を拠出することを承認。

*甚大な台風災害を被ったフィリピンに鑑み、フィリピン聖公会に見舞金20万円を送ることを協議。第110(定期)教区会開会礼拝の信施金をこれに充当、「災害緊急支援資金」から差額を加え、20万円とすることを決定。

公 示

救主降生2013年12月2日
日本聖公会大阪教区主教
主教 サムエル 大西 修

以下の人事を発令します。

司祭 クリストファー 奥村 貴充

聖贖主教会副牧師に任命する。

阪神・淡路大震災19周年 追悼の集い — 祈り —

◆ 日時：2014年1月17日(金) 午後7時～8時

◆ 場所：日本聖公会 西宮聖ペテロ教会

◆ メッセージ：

日本聖公会大阪教区
主教 サムエル 大西 修

◆ テーマ：「わたしはあなたを愛している
あなたを決して捨てたりはしない」
～み言葉と詩の朗読 そして‘祈り’～

どうぞ、どなたでもお越しください。
ともに集まり、ともに追悼のときを持ちましょう。

教区関係教役者 逝去者記念聖餐式

◇ 1月8日 (水) 10:30 ~

於: 主教座聖堂 (川口基督教会)

説教者 司祭 ペテロ 岩城 聰

- 1日 宣教師 ヘンリー・ラニング (1917 米)
- 司 祭 デイビッド・マーシャル・ラング (1946 英)
- 司 祭 ウイリアム・ロイストン・グレイ (1950 英)
- 3日 主 教 ウイリアム・オードリー (1910 英)
- 司 祭 河合 莞三 (1939)
- 12日 司 祭 ヨセフ 側垣 基雄 (1965)
- 司 祭 ギデオン 小川 博司 (2002)
- 13日 伝道師 三木 八十五郎 (1918)
- 15日 司 祭 パーシー・A・スミス (1960 米)
- 司 祭 寺本 房吉 (1960)
- 19日 司 祭 ペテロ 宇野 秀太郎 (1944)
- 主 教 アーサー・リー (1958 英)
- 伝道師 今泉 穎子 (1970)
- 20日 司 祭 ヒカル 柳原 光 (1994)
- 21日 司 祭 久永 光雄 (1937)
- 22日 主 教 ペテロ 松本 寛一 (1980)
- 25日 執 事 ト部 徳太郎 (1933)
- 27日 司 祭 サムエル 久保 道則 (2011)
- 30日 執 事 バルナバ 寺沢 久吉 (1945)
- ?日 司 祭 山下 有任 (1903)

◇ 2月12日 (水) 10:30 ~

於: 主教座聖堂 (川口基督教会)

説教者 司祭 ジョージ 林 正樹

- 1日 宣教師 エルザ・M・キーン (1949 英)
- 3日 司 祭 トマス 佐藤 時雄 (1989)
- 5日 司 祭 バークレー・フォーウェル・バクストン (1946 英)
- 8日 宣教師 フランシス・エドワード・ハモンド (1932 英)
- 10日 司 祭 祖山 達三 (1941)
- 司 祭 皆川 晃雄 (1952)
- 宣教師 フローレンス・マリアン・ファジル (1956 英)
- 13日 伝道師 マリア 奥田 ヤス子 (1949)
- 14日 司 祭 J・ハミルトン・クインビー (1882 米)
- 16日 司 祭 ステパノ 久保 登知雄 (1981)
- 17日 司 祭 ジョージ・ヘンリー・ポール 1929 英)
- 19日 伝道師 小橋 かつえ (1964)
- 20日 司 祭 ヨセフ 松岡 安立 (1972)

* 教役者逝去記念聖餐式は、毎月第2水曜日午前10時30分から、川口基督教会で行われます。ご関係の有無にかかわらず、どうぞ自由にご出席ください。なお、昼食の準備はなく、茶菓のみの提供となります。

教会・施設の動き

川口基督教会

○ 12月23日 (月) には、午後1時30分と午後5時から、「ゴスペル・イン・文楽」が上演されます。チケットは完売しました。主に感謝します。
○ 12月24日 (火) 午後7時からクリスマススイブ燭火礼拝があります。また11時45分からは深夜礼拝があります。

祝受洗

○ 石橋聖トマス教会

フランシス 牧口 成彦 (9月16日)

祝受按

○ 堺聖テモテ教会

テレジア 深堀 好子 (10月6日)

アンジェラ 三ツ石 美恵 (10月6日)

ベロニカ

○ 川口基督教会

ルツ 戸塚 雅代 (10月27日)

○ 大阪聖三一教会

ルツ 寒河江 真実 (11月17日)

マリア 濱口 優梨子 (11月17日)

魂の平安を

祈ります

○ 東豊中聖ミカエル教会

ダニエル 藤井 保男 (9月20日・67歳)

○ 大阪聖アンデレ教会

エリザベツ 植田 哲 (10月29日・99歳)

○ 大阪聖贖主教会

キテングス・エリザ・ポール (10月15日・80歳)

マリヤ 川原 和子 (11月8日・80歳)

マルタ 竹林路 香子 (11月14日・87歳)

○ 堺聖テモテ教会

聖母マリア 奈良 歌子 (11月8日・96歳)

○ 大阪聖パウロ教会

エリサベツ 森田 輝子 (11月15日・89歳)

○ 高槻聖マリヤ教会

スザンナ 松崎 澄子 (11月26日 81歳)

編集後記

大阪教区成立90周年(2013年)最後の教区報をお届けします。今回は増頁になりました。次号(第435号)からは新たに指名される広報委員会が担当します。第43号まで通算18号を皆様にお届けしたことを、主に感謝致します。(広報委員会一同)